

学生受け入れ橋渡し

サクランボ農家は、収穫出荷に大忙しの日が続いている。高齢化などで労働力の確保が課題だが、その解決に向け、つながりを生かし、垣根を越えて連携し合う新たな動きも広がる。

河北町には、ベトナムとカメルーンから山形大学農学部大学院に留学中の学生ら5人がサクランボ作業の応援に来ている。26日は歓迎を兼ね、受け入れ農家と大学教授、町、JAグループなどが交流会を開いた。受け入れ窓口となったのが農事組合法人「ファーム吉田」。県地域営農法人協

サクランボ収穫に助っ人

議会員で、JAグループ山形地域・担い手サポートセンターとのつながりから、JAさがえ西村山無料職業紹介所を通じて組合員の鈴木勲さん(69)とJA理事の縄潤一さん(54)が4人の留学生を受け入れた。23日から30日まで収穫などを手伝っている。

「ファーム吉田」代表の佐藤勝良さん(68)は「労働力確保は地域農業の将来に関わる大きな課題。垣根を越えて連携し、解決につなげていくことが大切」と語り、自身も山形大学農学部生1人を受け入れた。

25歳のベトナム人女子留学生2人を受け入れた縄さんは「助かる。一服時にはベトナムの話も聞けて疲れも忘れる」と話し、留学生2人も「お手伝いできてうれしい」と笑顔を見せた。

宿泊施設は、「ファーム吉田」が地域の協力を得て空き家を確保。備品類は、やまがた農業支援センターとJAグループによる、地域で育てる担い手育成支援事業を活用してそろえた。

今年他に、さくらんぼひがしね、てんどう、やまがた各JAの無料職業紹介所を通じ、山形大学や仙台

市の百合女子大学健康栄養学科の学生合計10人も応援に駆け付ける。サポートしている。

センターの幅広いネットワークが労働力確保に一役買っている。



サクランボ畑で一服する縄さん(左から2人目)とベトナム人留学生(右2人)ら